（様式１）

県立竜ヶ崎第二高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

1　社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校の実現を図る。
2　確かな学力と豊かな心、健やかな体を育成する。
3　社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人財を育成する。
4　望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財の育成を図る。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの・ことに関する総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、適切な論理的な課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。
(1) 母校がある龍ケ崎市を「私の龍ケ崎」という視点で見つめることにより将来、いかなる地域に居住しようとも地域を大切にする気持ちを育てる。
(2) 基礎的資質能力育成を図りながら、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ探究、地域探究、人間探究キャリア探究、道徳探究の５つの柱として、生徒が主体的に「話し合う」「意見をまとめる」「発表する」「行動する」等ができるようにする。
(3) 中学時代に発揮されていなかった生徒の力を引き出し、伸ばすことで将来、地域を支え活躍できる資質を備えた人材を育成する。

総合的な探究の時間の学習評価

信頼される評価
課題探究授業終了ごとに、各学年会等において、学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。多様な評価・学習状況の過程の評価
(1) 計画書や中間・最終のグループ発表、作成した資料、振り返りシートへの記入等を評価の対象とする。
(2) 最終発表後の自己評価並びにグループ内の他者の評価も評価の対象とする。

生徒の実態

普通科、商業科、人間文化科の３学科から構成されているが、それぞれの科の特性により生徒の様子も異なる。生徒一人ひとりによって自己肯定感がもてる力に幅があるため、生きる意欲を向上する工夫が必要である。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・集団行動が苦手な生徒に対しては、無理のない範囲で参加するように促す。

・理解度の低い生徒については、進捗状況を踏まえた個別の指導を行う。

目指す生徒の姿

・主体的に「話し合う」「意見をまとめる」「行動する」ことができる。
・良好な人間関係を築いて行動ができる。
・自己肯定感を持つことができる。
・地域を大切にし、良き伝統を継承することができる。
・自らの進路について考え、その実現に向けて努力できる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【１学年】（地域探究、グローバル探究、道徳探究を通して）
地域探究（地域活性化に向けた特色ある取組）
(1) フィールドワークで地域の課題を認識することができ、行政報告書により課題が数値として表れていることを実感できる。
(2) 意見交換により自己の意見を客観して、他者の意見から多様性を尊重することができる。
(3) 意見発表を通してプレゼンテーション能力が育成できる。
グローバル探究
(1) 茶道の歴史的背景を学び、日本人に共感される要素を明確化できる。
(2) 所作を反復しながらその意味を考え、正確な動作に向けた努力をすることができる。
(3) 一連の所作を完成させることで自信が持てる。
道徳探究
(1) 学年集会・講演会等を活用しながら、地域探究・グローバル探究の成果を織り込み、様々な事象・出来事を俯瞰的に見ることができる。
(2) 善悪の判断を適正に判断し、状況にあった行動をとることができる。
【２学年】（道徳探究を通して）
(1) 学年集会・講演会等を活用しながら、感想を発表した上で課題を設定し、「インターネット」「図書館」等を活用し、情報の収集を行う。
(2)「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」を学び、人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
(3) SNS を使用するにあたり、相手のことを常に考え、使い方を間違えずルールをしっかり守って正しく使うことの大切さを学ぶ。
【３学年】（キャリア探究を通して）
(1) 進路別講演会並びにガイダンスを踏まえて自身の進路を深く考え、インターネットや進路に関する雑誌等を研究し、希望する進路の実現を図る。
(2) 志望理由書や履歴書等の書き方指導を通して、提出先原稿を完成させ希望する進路への具体的なアプローチを自ら行う。
(3)「礼状」の指導やスーツ着こなしセミナー、受験報告書の作成等を通じて、進路先での振る舞いを自覚するとともに、自己を振り返ることで社会人並びに大人としての規範意識を高めるきっかけとすることができる。

学習活動、指導方法等

[学習活動]
・１年生は地域理解と活性化、２年生は１年次の活動内容をさらに掘り下げ、修学旅行先である沖縄との比較なども交えて地域探究を継続、３年生は進路を探究課題として設定する。
・１、２年生はグループ研究、３年生は全体指導・進路別指導・個人研究を通して実施する。

[指導方法]
・生徒の課題意識を連続的に発展し、深化させる支援。
・協働的な学習活動の充実と地域との連携。
・対話を中心とした個別支援の徹底。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

(1) 情報活用能力（各学年担任４名）…ＩＣＴ活用を含めた授業の工夫改善による、生徒の主体的に「話し合う」、「意見をまとめる」、「発表する」、「行動する」等の力を育成する。
(2) 地域との連携（５団体）…地域の外部講師を招くことにより、学校内だけではなく、社会と共有・連携しながら学びの意義を実感させ、学習意欲の向上を図る。
(3) 就職先、進路先との連携（１５名程度）…インターンシップ研修、企業訪問や大学訪問、出前授業等による企業及び上級学校との連携を図る。